

特別展 陽明文庫・国宝展
— 近衛家1000年の至宝 —
時10月3日(日)～11月14日(日)

熊野に国宝が

京都にある「陽明文庫」。昭和初期に総理大臣を3度務めた近衛文麿が、代々伝わる資料の保存と継承のために設立した特殊図書館です。今回、約20万余点の貴重な歴史資料の中から、陽明文庫が所蔵する全ての国宝8件と、重要文化財9件を含む約50件を筆の里工房で展示します。



陽明文庫 収蔵庫

広島県には、現在、国宝が26件ありますが、それら

の多くは、寺院などの建造物や刀です。書跡、絵画としては、平家納経を含む3件しかありません。今回、熊野に国宝が8件も展示されるのですから、見逃す訳にはいきません。

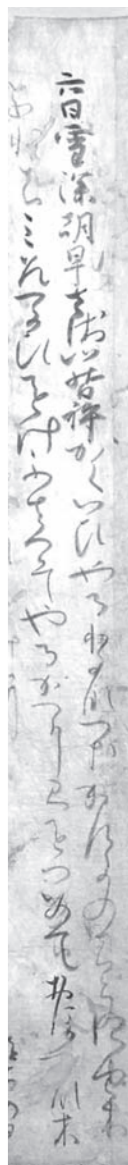
千年前の日記

藤原道長といえば、「この世をば わが世とぞ思ふ望月の 欠けたることも無しと思へば(今、私はすべて満たされた状態なので、この世を私のための世だと思おう)」と詠むほど、権力の頂点を極めた平安時代の人物として有名です。その道長が書いた日記が、陽明文庫に残っている国宝「御堂関白記」です。5月号のコラムでも紹介しました。平安時代の最高権力者が



国宝 御堂関白記

自ら書いた日記で、しかも26巻21年間分もあります。さらに、写本ではなく現物そのものが残っている、日本で最古の日記です。これらことから、国民の宝、国宝に指定されているのでしよう。千年もの長い年月を経て、よく今日まで伝わったものです。



御堂関白記 長保6年2月6日条 裏書(部分)

しよう。
長保6(1004)年2月6日の条の裏に、和歌が書かれています。これは、当日、大雪が降ったため、前日の5日に奈良の春日大社に向いた息子、頼通を心配して詠んだもので、仮名で和歌が書かれています。仮名で和歌が書かれています。仮名で和歌が書かれています。

近衛と藤原の関係

なぜ「近衛家」に伝わる家宝の中に「藤原家」の道長の歴史資料があるのでしょうか。実は、もともと近衛家は藤原の姓なのです。祖先は、飛鳥時代の政治改革「大化の改新」で功績を上げた中臣鎌足。天智天皇から藤原の姓を賜ったところから始まります。その



藤原鎌足像(部分)

雅な美しい調度品

このように、天皇に一番近い貴族として、政治の中核、つまり日本の歴史に関わり続けたからこそ、近衛家・陽明文庫には、その時代ごとに交遊のあった文化人や天皇などの書や絵画、

貴重な歴史資料が残されています。また、雅やかな調度品があるのも今回の見所の1つです。古い書を集めて貼った国宝「大手鑑」(下記コラム参照)、美しい唐紙に和歌と漢詩が書かれた国宝「倭漢抄」(表紙参照)、天才絵師、狩野探幽が見事に描写した「宇治拾遺物語絵巻」、奇才の書家、近衛信尹の豪放な書を散りばめた「源氏物語和歌色紙貼交屏風」、金地に人気絵師、酒井抱一が描いた「四季花鳥図屏風」などは圧巻です。かわいらしい御所人形(表紙参照)、賀茂人形もあります。

たとえ何が書いてあるか、内容や時代背景を知らなかったとしても、千年に及ぶ日本の歴史の重み、雅な貴族文化の世界を、きつと肌で感じていただけることと思います。「国宝」とされ、多くの人々によって大切にされ、時代を越えて伝

えられてきたものには必ず力があります。ぜひこの機会にご来館ください。



四季花鳥図屏風 酒井抱一筆(右隻)

イベント

- 講演会
時10月9日(土)午後1時～3時
- イベント
定100人(要申込)
¥無料(要入館料)
● 国宝に挑戦
時10月10日(日)午前10時～正

午、10月31日(日)午後1時半～3時半

定各回20人(要申込)
¥1千500円(要入館料)

● ミュージアムナビゲーター
時会期中の土、日曜日(10月9日(土)は除く)①午前11時～②午後1時半～(各回20分程度)
¥無料(要入館料)

● 鍾聲庵呈茶・上田宗箇流
時会期中の日曜、祝日午前10時半～午後3時
¥400円(要入館料)

● 陽明文庫展期間中の入館料
大人 800円
小中高生 250円
幼児 無料
※PAL会員は無料です
● 入館料の町内割引
町内に在住の人は、筆の里工房で住所、氏名を所定の用紙に記入していただくと、特別料金で入館できます。

大人 800円↓300円
小中高生 250円↓150円
※社会見学は無料です

「陽明文庫・国宝展」コラム6

大手鑑(国宝)

手鑑とは、古い書の切れ端を集めてアルバムのように折帖に貼って観賞するもの。和歌集、手紙、写経などが数行ずつ貼ってあります。これらが、鏡を開くように、手軽に鑑賞できることから、手鑑と呼ばれます。安土桃山から江戸時代にかけて、貴族や武士の間で流行しました。この時代には、すでに古い書を鑑賞する文化があったのです。

陽明文庫にある手鑑は、1ページが縦約46cm、横約62cmもある大きな手鑑で、奈良から室町時代にかけての古い書が貼ってあります。よくこのような古い書は、1点だけでも掛け軸にして鑑賞したり、お茶席に掛けたりして大切にされますが、この大手鑑の中には、たくさんのお手紙がアルバム上に貼ってまとまっているの

ですから、その価値は計り知れません。

また、手鑑は鑑賞とともに、書の手本にもされました。現在でも、印刷ではありませんが、昔の書の達人たちの筆跡を手本に勉強することは書道の基本です。国宝の手鑑は、他に京都国立博物館や出光美術館などに所蔵されていますが、陽明文庫の大手鑑は、質、量共にこれらに比肩する逸品です。



→ 大手鑑(国宝)